

令和3年度赤江まつばら支援学校 学校評価アンケート(職員)

回答職員数: 56名

評価指標	A	B	C	D	E
1 幼児児童生徒が、毎日の登校を楽しみにすることのできる授業づくりと学びの保障					
「わかった、できた」という達成感や成就感が味わえるよう授業を工夫し、成功経験を積み重ねることで登校意欲を高めることができるよう取り組んでいる。	6.8%	88.6%	0.0%	0.0%	4.5%
幼児児童生徒一人一人の実態に応じて、適切な学びの保障が受けられるよう、ICT教育の推進と実践の充実を図っている。	4.5%	72.7%	20.5%	0.0%	2.3%
2 感染症や自然災害等の対策の徹底と体制づくりの充実					
新型コロナウイルス感染症を含めた、感染症の予防と対策を徹底するよう取り組んでいる。	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%
南海トラフ地震等による津波への備え及び訓練等の対策を徹底し、命を大切にす教育の充実を図っている。	9.1%	77.3%	11.4%	0.0%	2.3%
離脱やインシデント等の予防に努めるとともに、不測の事態の際には、組織的に対応できる大切整備の充実を図っている。	13.6%	72.7%	13.6%	0.0%	0.0%
3 一人一人の個性を大切にす高い人権感覚の醸成					
いじめ等がないよう、幼児児童生徒の日々の変化に注意をはらい、早期に対応できる体制の充実を図っている。	13.6%	84.1%	2.3%	0.0%	0.0%
SNS等の適切な使用について理解を深め、一人一人を大切にすし、誹謗中傷等がないよう大人も含め学校全体として人権意識を高めている。	11.4%	68.2%	18.2%	0.0%	2.3%
4 幼児児童生徒の模範となる教員の育成					
公務員としての法的根拠等について知識の習得と研修を深め、高い規範意識とコンプライアンスの遵守の徹底を図っている。	22.7%	75.0%	2.3%	0.0%	0.0%
職員がそれぞれの専門性や強みを発揮すると共に、後輩職員へ知識やノウハウを継承する等のOJTの充実を図っている。	4.5%	65.9%	27.3%	0.0%	2.3%
5 病弱特別支援学校としてのセンター的機能の充実					
チーフコーディネーターを中心に、病弱や発達障がいへの支援について、地域のニーズに対応できるように取り組んでいる。	6.8%	65.9%	9.1%	0.0%	18.2%
Co-MaMeを活用した実践に取り組み、積極的な理解啓発を行っている。	0.0%	65.9%	22.7%	2.3%	9.1%
6 宮崎東病院を含めた関係機関との連携の充実					
治療と教育との目的の差異を踏まえ、幼児児童生徒のために円滑な指導や支援が実践できるよう連携を密に図っている。	0.0%	59.1%	22.7%	2.3%	15.9%
関係機関との連携を密にし、情報の共有や今後の支援の方向性を決定し、実践できるように取り組んでいる。	6.8%	65.9%	11.4%	0.0%	15.9%
7 社会に開かれた学校への取組の推進					
学校評議員会を中心に、地域住民や企業、保護者代表等を学校運営に参画させ、地域のニーズに対応した教育課程及びキャリア教育の改善を図っている。	2.3%	54.5%	20.5%	0.0%	22.7%

■評価基準■

【A】よく当てはまる 【B】当てはまる 【C】あまり当てはまらない 【D】全く当てはまらない 【E】分からない

は、「よく当てはまる」、「当てはまる」の合計が80%以上

は、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」の合計が20%以上